



## 【全てを与えるために来られたイエスキリスト】

聖書:ヨハネの福音書3章16節・ルカの福音書6章32-38節・暗唱成句;ルカの福音書6章38節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!一週間もお変わりなくお元気でしたか。また始まった今年最後の12月、特にアドベント2週目の一週間も我らのインマヌエルの救い主イエスキリストの信仰と平安のうちに日々守られ祝福されますように切にお祈り申し上げます!!

アドベント2週目が始まります。地上のすべて主の教会は聖誕までの四週間を待降節(アドベント)と言われ、敬虔に過ごしています。アドベント(Advent)とは‘来る’、‘到着’を意味するラテン語‘adventus’から由来された言葉です。これはキリストの初臨、つまり、人類の救い主として来られる降誕を祝い、感謝しつつ、降誕の以来今もなおその救い主を迎え入れ信じる我々と共におられるイエスキリストと共に日々敬虔に過ごす4週間となります。

## &lt;1. 惜しまず与えてくださる三位一体の神様&gt;

「あなたを愛し、あなたを祝福し、あなたを増やす。主があなたに与えるとあなたの父祖たちに誓われた地で、主はあなたの胎の実、穀物、新しいぶどう酒、油などの大地の実りも、またあなたの群れの中の子牛、群れの中の子羊も祝福される。(申命記7章13節)」

「神はあなたがたに、あらゆる 恵みをあふれるばかりに与えることができになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれるようになるためです(コリント人への手紙第二9章8節)」

神様は私たちに天地万物を創ってくださり、罪人である私たちを愛したゆえに、ひとり子を与えてくださり、日々、私たちに良いもので食べさせ、着せてくださり、養ってくださる我々の父なる神であります。そして、聖霊の神様も我々のためにたえず、とりなしをされ、導いてくださり、神の御言葉を御心のように悟らせてくださり、それぞれに相応しく神の賜物を与えてくださるお方であります。「同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えてくださるのです。(コリント人への手紙第一12章11節)」

「救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神のことばを捕りなさい(エペソ人への手紙6章17節)」

特に、アドベント2週目を迎えながら、御子イエスキリストは我々を愛し救う為に神の位を捨ててご自身の与える為に一番弱い人間の姿を取り、この地に来られたのです。そして、私たちのために愛の残るところなく与え、惜しまずにご自身のいのちまで十字架の上で与え、我々の罪を赦し、救い出してくださいました。聖書では私たちが永遠の罪の奴隷から神様の子供とさせるために、一滴(ひとしずく)の血でさえ惜しまず、与えてくださった御子イエスキリストであります。

みなさんもよくご存知のヨハネの福音書3章16節によると、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

この「与える(デイドミ)」という言葉は、さきほど読んで「そのひとり子をお与えになった。」という言葉にも一緒に使われてきました。この世に来られた救い主なる神の御子イエス様の生涯自体を一言でまとめると、与える人生でした。その為イエスキリストは「このように労苦して、弱い者を助けなければならないこと、また主イエスご自身が『受けるよりも与えるほうが幸いである。』と言われたみことばを、覚えているべきだということ、私はあらゆることを通してあなたがたに示してきたのです。」(使徒の働き20:35)と言われました。地上では野宿者であり、無所有で、ご自身が持っている物はすべて弟子たちと多くの人々たちのために愛の残るところなく、惜しまず与えて下さったお方であることが分かります。

「さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知られた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。(その愛を残るところなく示された)(ヨハネ13:1)」

このように三位一体の神様は信じ、従う者たちにたえず与えてくださるお方であることが分かります。その与えて下さる神の愛は世々に至ります。御子イエスキリストは、この世に来られたのは、我々を愛され、ご自身を与えるためであると聖書は教えて下さっています。クリスマスまでのこのアドベントの期間を過ごす我々もその救い主イエスキリストに感謝し、神の愛を分かち合わなければなりません!

神を愛し、イエスキリストを受け入れ、信じて従う人たちは当然イエスキリストが自分になされたように、その似姿に益々変わっていく者たちになると信じます。だから、そのような人たちをクリスチャン、キリスト者だというのはないでしょうか。キリストに従う人生はイエス様のように自分も与える人生を送ろうとします。

今日の本文ルカの福音書6章32節から38節までの内容は祝福されたクリスチャンたちがどのように生きればこの地上でもさらに祝福された生活ができるかを教えて下さっています。その中で今日の本文の38節がすべての先の話をまとめられた結論的な内容だと言えます。クリスチャンとして主にあつて豊かな人生を送るため、イエス様は結論的にこう言われました。

「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前よく図って懐にいれてもらえます。あなたがたが量るその秤(はかり)で、あなたがたも量り返してもらえらるからです。」

イエスキリスト愛と恵みの赦しを、慰めを経験された人々、主の哀れみを受けた人々、主の満たしを経験された人々、イエスキ

リストを信じ、常に主の御言葉通りに生きようとし天国を所有した者たちは、神がすべてを惜しまずに自分に与えて下さったようにあなたも与えなさい！与える者になりなさいと命じられているのです。それは律法や義務より、自然なライフスタイルであり、自発的な愛の生き方を望んでおられます。

なぜでしょうか。我々が信じている神は我々を愛する為に、罪を赦す為に、救うために、惜しまずにひたすらお与えて下さる三位一体の神様だからです！

## <2. 我々が与える事が出来る理由:すべてが神様からの神のものである>

愛する信仰の家族のみなさん!この世では自分の物を分け与えたら自分の損であって、自分の分がなくなってしまうのだと言います。しかし聖書は真逆に、与えなさい!与えればさらに豊かにされるとイエスキリストは約束して下さっています。

なぜでしょうか。

我々は知っているからです。私たちが持っているすべては自分の物ではなく、すべて主から一時的に各自に預けられているものであって自分の所有物ではないことを(マタイ25章14~30)知り、信じているために、主が喜ばれるところに、主が望んでおられる通りに分け与える事ができます。

**「そして言った。「私は裸で母の胎(たい)から出て来た。また裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。(ヨブ記1章21節)」**

特にマタイの福音書25章でイエス様のタラントのたとえ話と羊とやぎのたとえなしを通して、人に与えられているすべては神様からしばらくこの地上での一度許された人生に預かっている神のものであることを教えて下さっています。

人の一度の人生も、命も、預けられている時間や家族、物質でさえもただ全てが主からそれぞれ能力に応じて主からしばらくの間、各自神から預かっているものであって、神が我々の魂を呼んで下さって一度のこの人生を終えると、主の御前に立たされる時が来たら、主が各人生に預けて下さった物を主のためにどのように用いたのか清算する時が必ず待っている事を聖書は明確に教えて下さっています。そうじゃなく、主から頂いているものがあるのにも関わらず、最後までわしづかんいながら、ただ自分のためしか使わなかった物に主からの厳しい評価が待っている事も聖書が教えて下さっています。

**「それから、王は左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れ、悪魔とその使いのために用意された永遠の火に入れ。42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき食べる物をくれず、渴いでいたときにも飲ませず、43 わたしが旅人であったときにも宿を貸さず、裸であったときに服を着せず、病気のときや牢にいたときにも訪ねてくれなかった。』**

**44 すると、彼らも答えます。『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹であったり、渴いでいたり、旅人であったり、裸でいたり、病気をしていたり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』 45すると、王は彼らに答えます。**

**『まことに、おまえたちに言う。おまえたちがこの最も小さい者たちの一人にしなかったのは、わたしにしなかった。』(マタイの福音書25:41-45)」**

\*世話をする?ギリシャ語「ディアコネオ」、その意味:奉仕する、仕える(=愛の分かち合い&分け与える)意味であります。

\*最も小さい者たち?(one of the least of these brothers of mine):今だれかの愛の助けと支えが必要としている全ての人たち

**“あなたがたの助けを必要としている兄弟姉妹を見た時、それはあなたの前に立てておられる主を見ている時だ!”**

(タティアヌス・クレメンス)

今まで我らに与えられているものがすべて神様からこの地で生かされている限り、預かっている神のものであると信じる人々こそ、分け与える人生を實際送ることが出来ると信じます!

我らは我らの人生、すべてが神から与えられたものであると信じながらも、実際にはまだ自分が王様のように、すべての物が自分の所有物かのように、主人で自分の所有物かのようにいつも手を握っている矛盾な生き方をすることがあります。自分の事だけでも全然足りないのにとつづやきながら、少しも手をひらいて分かち合い、分け与えることが出来ない方々も多くいるのではないのでしょうか。すべての主なるイエスキリストを受け入れ信じて救われクリスチャンになったというのは、ただ思い、心だけではなく、実生活においても我々が持っているすべてのものも救い主なるイエスキリストであること認めることであります。この信仰をしっかりと握っているからは結局すべてが主のものであるため、主が望んでおられるところに喜んで分け与えようとするようになるでしょう。

信仰によって、ただ神様の恵みによって救われた神様の民の生き方はイエスキリストのように分け与える人生を常に根ざし、そのように送ろうと目指します。そして、イエス様は私たちに与えなさいと言われながらそこには何の条件も付け加えません。神様は私たちみなを祝され幸せで豊かな人生を過ごすことを願っておられます。そのように生きるために神様は我々にいつも受けることを願い、それに慣れてしまい、受けれるか、そうじゃないかによって左右される人生ではなく、物であっても、神のように、イエスキリストのように心であっても与えられる人、その人生こそ、直接神からさらに祝福された道に歩み、さらに生きておられる神御自身が足りなくなっているところをさらに満たして下さる奇跡を経験されることを約束して下さっているのです。ですから、キリストがそうなされたようにクリスチャンの信仰と人生をも一言で言わせるなら、それは与える生き方、与える人生ではないのでしょうか。

## <3. イエスキリストのように分け与える者にさらに与えられる神の祝福>

今日の本文に戻って、ご一緒にもう一度読んでみましょうか。「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺(ゆ)すって入れたり、盛り上げたりして、気前よく図って懐(ふところ)にいれてもらえます。あなたがたが量るその秤(はかり)で、あなたがたも量り返してもらえます。」(ルカの福音書6:38)

つまり、神様は与える人にはより良いもので報いてくださるという御言葉です。私たちの神様には負い目になさることは決してありません。かならず、神様は報いてくださいます。ですから私たちが善を行って、ほかの人を助けてもてなしてあげたのに「何、お礼の一言もない」と怒る何の必要もありません。なぜなら、神様はかならず報いてくださるからです。

「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺(ゆ)すって入れたり、盛り上げたりして、気前よく図って懐(ふところ)にいれてもらえます。」という御言葉は神様の豊かな約束です。「気前よく図って(メトロンカルロン:最善の分量)」という意味は「必要に一番最大の量で与えられる」という意味です。ですからこの箇所の意味は自分にできるだけ多く最大限与えられるという意味です。

「必ず彼に与えなさい。また、与えるとき物惜しみをしてはならない。このことのゆえに、あなたの神、主は、あなたのすべての働きと手のわざを祝福してくださるからである。11貧しい者が国のうちから絶えることはないであろうから、私はあなたに命じて言う。「国のうちにいるあなたの兄弟の悩んでいる者と貧しい者に、必ずあなたの手を開かなければならない。(申命記15章10-11節)」

コリント人への手紙第二(2Corinthians)9章6-10節には我らにこう約束されています。

「6少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。7一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださるのです。8神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることができになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれるようになるためです。9彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠にとどまる」と書かれているようにです。10蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！なぜ与えることが祝福になるのでしょうか。おさない子供たちであればあるほど、自分が受けようとするばかりで、その時が嬉しいですが、自分のお菓子を分けて与えようとするのが嬉しくないのではないのでしょうか。しかし、子どもたちが徐々に大きくなり、成熟すると与えることを学び、その価値を知るようになるように同じではないでしょう。信仰にも段階があります。まだ未熟な子供のような信仰を持っている時は自分がぐださい求めるばかりで、自分の受ける祝福ばかり祈り、願い、考えます。周りがどうであっても、どうなっても重要じゃありません。しかし、イエスキリストのまことの愛と恵みを経験すればするほど、イエスキリストの弟子として成長すればするほど、そのようなクリスチャンはイエスキリストがそうなされたように似てるように自分も与える者になって行きます。聖書ではそのような人が成熟されたクリスチャンであり、まことに祝福された者であると教えて下さっています。

聖書はこう語っています。マルコの福音書9章41節に、「まことに、あなたがたに言います。あなたがたがキリストに属する者だということで、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません。」  
「失望せずに善を行いましょう。あきらめずに続ければ、時が来て刈り取ることになります。」(ガラテヤ人への手紙6章9節)

神様はかならず、キリストの愛を持って分け与えることに忘れず、すべて報いてくださるお方です。そして「与えなさい。そうすればあなたがたに与えられる。」と言われました。私たちの神様は決して負債を負うお方ではありません。自分のものを喜んで分け与えるとき神様も私たちに与えてくださいます。特に神様は貧しい人、特に困難な環境に助けが必要とされている人々を覚え、彼らの必要を供給する人々を愛しておられます。

私たちは子供たちに将来何かを残してやろうと恋々(れんれん)としているのではありませんか。しかし、覚えてください。子供に金を残してやると兄弟の関係も、親子の関係もその金によって苦しくなるのみです。ですからまことに子供を愛するなら、祝福されてほしいければ、神の前で善をたくさん行ってください。まず、子どもたちの前で分け与え、助けてあげる人生を見習うようにたくさん見せて下さい！そして、子どもたちも小さなことから与えることが出来るように教えて上げて下さい。かならず蒔いた分の刈り入れをみなさんも、みなさんの子どもたちの時代に報われると信じます。みなさんは今日何をまいているのでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！私たちの神様は真実な方です。神様はどんな形でも、だれを通してでもかならず分け与えたことに忘れず報いてくださいます。私たちの神様は決して借りる方ではありません。

#### <4.これからイエスキリストのように具体的に愛を分け与える者になりましょう。>

すると、私たちはだれに与えるべきでしょうか。「誰にでも与えなさい」と聖書は言われます。いつ与えるべきですか。いつでも関心を持って、助けが必要な人がいたら、与えるべきです。どうしてある時だけ与え、ない時には与えないようにするのでしょうか。

ユダヤ人たちの間で、言われてきている話の中でミドラシという話があります。モーセが死ぬ前に救済について民たちにこの

ように教えます。“あなたがたが救済をよくすればのちには豊かになって、お金を借りに行く人もいなくなってくるはずだ。”すると民の一人が“そしたら、自分の所得のいくらを救済すればいいのでしょうか。”“10分の1なら十分でしょうか。”“もし私に救済するお金がない時に、また来たら、手ぶらで帰してもよろしいでしょうか。”その時モーセはこう言ったそうです。“お金がないなら助けが必要な人に愛の親切でも与えることができるのではないか。これはお金よりもっと大きいものを与えることになります。”

**愛の親切！(温かい励ましの言葉、慰めや感謝の言葉と姿勢、笑顔と温かい微笑み、傾聴して上げる事、心からその人のために祈ってあげる事、だれかの必要さや困っている事に思い遣り、心遣いを持った配慮と仕えなど)はかならず物質やお金がかからなくても、年齢関係なくだれでも出来ることであり、与えることが出来るでしょう。**

イエス様を信じているクリスチャンなら、自分中心から他人中心に考えが変わらなければなりません。

**「むしろ、あなたがたを召(め)された聖なる方に倣(なら)い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。「あなたがたは聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」と書いてあるからです。(ペテロの手紙第一15-16節)」**

この箇所を教えて下さっている事はイエスキリストが聖であるように、私たちも聖でなければならないということ！つまり、クリスチャン生活とは、聖くなることであることだと教えて下さっています。(ここで「聖(Holy)」と意味は区別される)

しかし、イエス様の当時律法主義者だったパリサイ人たちは、自分たちでルールを決めて、ルールを守らない人をさばきました。ついに彼らはイエス様までも非難し攻撃してしまいました。しかし、この世に来られたイエス様は、1人1人の魂に対して配慮をされ、愛されました。イエスキリストが行いを通して見せて下さった本当のきよさは、魂に対する配慮でした。愛でした。愛こそ聖さであると言えます。聖さを別の言葉で言い換えるならば、「愛」が近いことばだと信じます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！私たちは、規則、ルールを守ることをきよさと思っていません。礼拝出席、祈禱会出席、献金、聖書読み、祈ることなど、もし、それを行っている事が聖さと思っていると、自分がよくできれば自己満足したり優越感を抱いてしまったり、できていない人にはパリサイ人のようにさばくようになっているのではありませんか。

しかし、みなさん！本当の聖さというのはパリサイ人のように律法的になるのではなく、主イエスのように自由になることです！間違った聖さは、他人が私をどう見ているのかを気にすることであり、**真の聖さは、イエス様のように他人が必要としているのは何かに関心を具体的に持つことである。つまり、真の聖さとは愛である事を決して忘れてはいけません！**

我らのために、すべてを与えるために来られたイエスキリストは、今日我らに、「**与えなさい！**」と命じておられ、願っておられます。「**だれでも困っている人々、何か助けが必要とする人がいるなら、手を差し伸べてあげなさい、与えなさい。**」という意味です。そして「**さらに主から頂くことを望む者は、まず人に与える者になりなさい。**」という意味も含まれています。今日の御言葉は**愛の具体的な行い**について語っています。**人類歴史上一番与える生涯を送った方はまさにイエスキリストでした！**

### <本日のメッセージのまとめ>

今年のアドベント2週目、今年の最後の12月中、是非、共にこの世に我ら愛するがゆえに惜しまずすべてを与えるために来られたイエスキリストを見習い、実際に教会や牧場の家族に、周りの人々にキリストの愛を喜んで分かち合い、与える愛に満たされる私とみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！

覚えて下さい。今自分が所有しているすべてがただ神様からしばらくの間、預かった主のものであります。しばらく預けて下さっている神の物です。**神はむしろ神の物を自分の物とせず、流し、分け与える者にさらに自分のもののように預け、満たし、与えて下さいます！神様が与えたその手とその分を覚えて下さってさらに与えて下さるからです。**自分が持て置いているまま、この世を去ると、所有していたすべてのものは結局神様が預けて下さったのにもかかわらず使わず、ただ浪費してしまったこととなります。そして神様の御前でその結果に対する責任が問われるでしょう。十字架につけられる前に信じ、従っている弟子たちに残るところなくすべての愛を示されたイエス様のように、みなさんが持っているキリストの愛を惜しみなく与え続けて見てください。

みなさんの微笑みを、親切を、暖かい言葉を、みなさんの祈りを必要な人々の為に、何よりも我々が知り、持っているこのイエスキリストの救いの愛の福音を分け与える者になって下さい。このアドベントのクリスマスを迎える時期、我らいつも共におられる全能なる神に押しつけ、揺すりいれ、あふれるまでにして、ふところに入れてくださるまで祝福されるクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりましょう。

クリスマスが近づいて来ています。主ご自身がすべてを与えるながらも我ら愛されたように、私たちをも喜んで愛を分かち合い与える者になることを願っておられます。与える人生が幸いです！神様は与える人生と信仰となる者たちに、今も豊かな満たし、さらなる祝福を与えて下さっています。与える人に必ず主から与えられます！今我らに与えられているすべてが主から許された主のものであると信じて、感謝と喜びを持って分け与えることにより、イエスキリストの真の弟子として歩む幸いな12月となりますように、今もなお生きておられるインマヌエルのイエスキリストと共に日々歩む豊かな愛の12月となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！

